

今月の星空



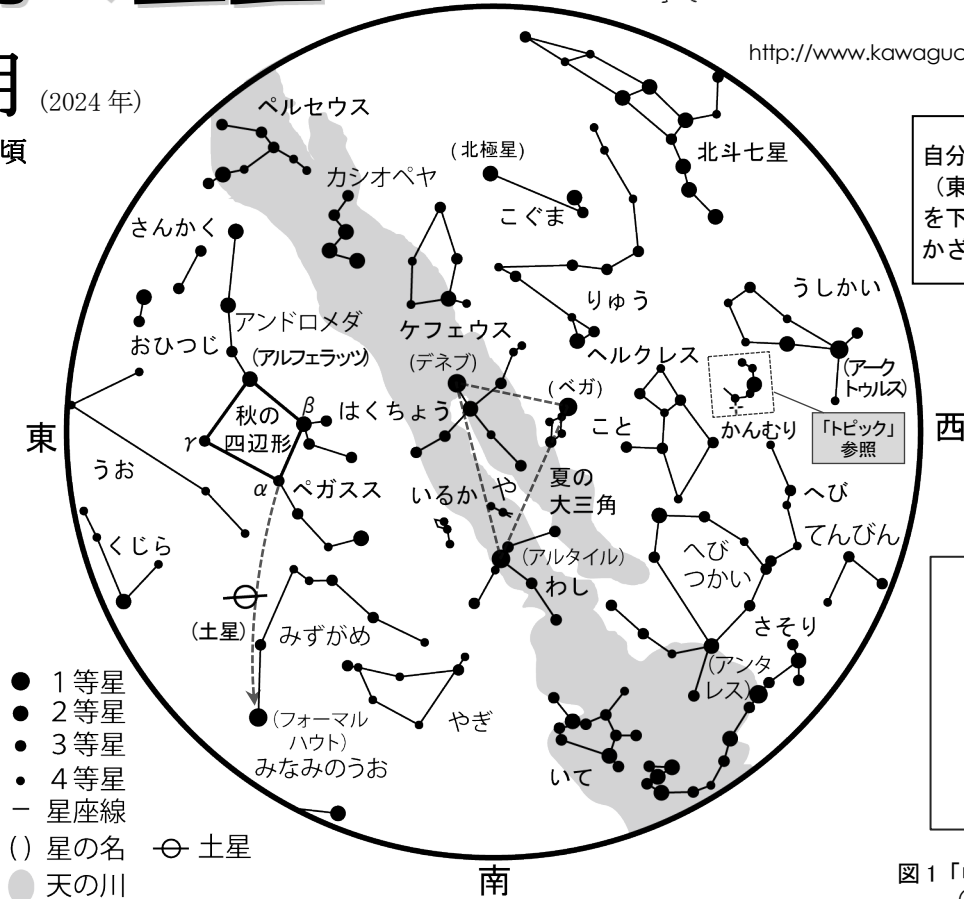
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



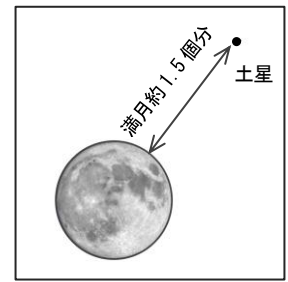
tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

9月 (2024年)
中旬 20時頃



星図の見方
自分が見ている方向を下
(東の空を見るときは東
を下)にして、頭の上に
かざして見ます。



スラナビゲータ11を基に作成
図1「中秋の名月」と土星の位置
(9月17日20時)

月 齢 ● 新月 3日、● 上弦 11日、○ 満月 18日、● 下弦 25日

惑星情報 水星 日の出前 東(しし座 0→-4等)※3日~9日
金星 日の入後 西(おとめ座 -4等) 火星 日の出前 東(おうし→ふたご座 1等)
木星 真夜中 東(おうし座 -2→-3等) 土星 夜のはじめ頃 南東(みずがめ座 1等)

☆秋の四辺形-土星-フォーマルハウト

9月中旬には日の入りが17時台となり、夏に比べて一層日暮れが早まり、秋の訪れが感じられる頃です。星空を見ても天頂付近を通る「夏の大三角」は健在ですが、東の空には秋の星座が着々と昇ってきています。目印となる「秋の四辺形」を見つけて、周囲の秋の星座の星を見つけてみましょう。例えば、星図のとおり、ペガサス座β星からα星へとつないだ線を延ばすと、フォーマルハウト(1.2等)が見つかります。今年は、その中間ほどの位置に輝く土星(0.6等)を經由してたどると良いでしょう。

土星は8日に衝となります。地球から見て太陽の反対側に位置するときで、地球との距離が近く、大きく見えるため、望遠鏡での観望好機です。ただし、夜のはじめ頃ではまだ高度が低く、夜空で目立つようになるのはこれからであり、秋の星座が見つかりやすい初冬まで見頃が続きます。

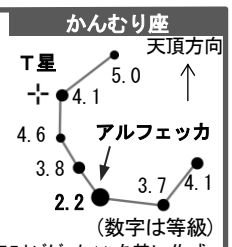
☆17日 中秋の名月~今年のお月見は土星とともに~

17日は旧暦8月15日にあたり、「中秋の名月(十五夜)」と呼ばれるお月見の日です。秋は、空気が澄んでいることや夏や冬に比べて月が見上げやすい高さ*であることから、お月见到した季節と言えます。加えて、十五夜の頃の月は目立つ星の少ない秋の星座付近にあるため、月がより際立つのかもしれない。今年はお月見のすぐ近くに土星が輝き、お月见到に華を添えます(上の図1参照)。

※月の南中高度の比較 [秋] 9/18(満月)…54度 [夏] 6/22(満月)…25度 [冬] 12/15(満月)…82度

トピック~約80年ぶりの増光なるか!? 再帰新星「かんむり座T星」~

かんむり座T星(右図の+の位置)は、普段は10等の肉眼では見えない暗い星ですが、約80年の間隔で爆発(新星爆発という)を起こして、2~3等まで急激に明るくなるのが知られています(極大期間は1~2日程度)。1866年と1946年の増光の記録や最近の観測から、2024年2月から9月頃に再び爆発を起こす可能性があると言目されています。過去と同程度の増光であれば市街地からでも見える明るさです。まずは2等のアルフェッカを見つけましょう。



スラナビゲータ11を基に作成